

新春を迎えて

目標があるから生きる望みが湧き、

自己成長へと発展していくのでしょう。

夢と希望は、青年期から成人期を

充実した人生になるようつなぐものです。

「日々前進」

喜界高等学校2年 富田 みやび

たくさんのごことを学んだ2024年から

感じる事ができました。また皆の前で話すことの難しさ、分かりやすさ、伝えることや言葉選びの大切さも知ることができました。今後、生徒会長として残された仕事を果たし、次期へとしっかり引き継ぎをしていきます。

私は生徒会長を務めており、生徒会活動や行事ごとのあいさつ等で

などがあります。そこで

は、これらの経験を活かし、相手に分かりやすく自分の想いを伝えるという力を発揮できるようにしたいです。

最後に、2025年が私にとっても、皆さんにとっても、一歩一歩前進していくことのできる最高の一年になりますように!!

「夢に向かって」

志布志高等学校2年 木尾 夏萌

私の夢は、看護師になることです。そのために、国立大学の看護学部への進学を目指して努力しています。

今年はいよいよ受験を迎えます。受験という大きな試験を意識することで、クラスの雰囲気も

はもちろん、高校生のうちにしか出来ないことにチャレンジし、それらで

得た、多くの経験をもとに、最上級生としてふさわしい姿を、後輩たちにも見せられるように頑張りたいです。

自分の夢実現に向かって、志布志高校の仲間や先生方と共に、この一年をより充実したものにしていきたいです。

「自分ではなく、皆のために」

鹿児島南高等学校2年 中島 颯太郎

私は高校生活の折り返し地点にあたる2年生になり、生徒会長を務めています。個性豊かな仲間と共に生徒会活動を行うことができ、2024

年は考え、楽しんだ1年になりました。2025年は自分自身を見つめ直

し、生徒の皆さんのためにできることをする1年にしようと思います。

受験生になり、生徒会活動も残り数か月になる中、悔いの残らない生活を送らなければなりません。ゆつくり動くのではなく、少しでも行動を速く必要があります。自分

くすることを心がけたいです。そして、皆さんのためにできることを探して実行に移したいと思っています。

生徒会は役員だけで作るものではなく、生徒全員の意見も取り入れていく必要があります。自分

「感謝のバトン」

指宿高等学校PTA会長 上野 隆康

薩摩半島の最南端に位置する指宿市にある本校は、令和4年に創立100周年を迎え、地域とも繋がりが深く、地域にとつて欠かすことが出来ない学校です。

私も残り3か月で末子が卒業するため、PTA活動も終わりとなりま

す。小中高とPTA役員をしてきましたが、生徒たちのおかげで、私は知らないことをいっぱい知ることが出来ました。まさかの事態が起こることも多々あり、まわりの人を頼りながらですが、生徒達と一緒に育ってきた

などいうことを実感します。今まで当たり前であった物事や風景も、いかに新鮮な輝きを持っているのか、どれほど重要なものなのか、ということも教えてもらいました。残

りわずかな期間ですが、感謝のバトンをしっかりと握りしめて活動していきます。

新たな社会に旅立つ前の大事な高校生活を有意義に過ごせるよう、サポートしていくのが我々の役目だと思います。

本年も教職員の方々、地域の方々と共に、未来を担う生徒の皆さんの手助けが出来れば何より嬉しく思います。

「繋がること」

出水特別支援学校PTA監事 林 るみ

本校は、小学部、中学部、高等部の3学部から成り、年々児童生徒数が増加し、PTAの組織も大きくなっています。

全国的にPTAの在り方が議論になり、SNS上で一人一人の意見を発信できる時代になりました

た。それだけに、PTAは何のためにあるのか立ち止まって考えていくことが必要だと思います。例えば、もし、PTAが無くなったらどうなるのでしょうか。PTAが動を通して会員同士で繋がり合い、未来ある子どもたちのために何かしらの役割を果たしたいという思いはもっています。

人は繋がりにしでは生きていけません。家庭と学校は、子どもたちの人間関係作りの基本的土台であり、車に例えるなら両輪となる関係です。PTAも子どもたちのために、お互いを理解し協力し合える組織でありたいと思います。PTAの存在理由はそこにあるのではないのでしょうか。